

北見工業大学学報

第268号 (2015年3月号)

目 次

学位記授与式	平成26年度学位記授与式を举行	2
告 辞	平成26年度学位記授与式告辞	4
入 試	平成27年度大学院工学研究科入学試験(第2回)を実施	6
	平成27年度工学部一般入試を実施	7
研 究 助 成	平成26年度共同研究の受入状況	8
	平成26年度受託研究の受入状況	8
	平成26年度奨学寄附金の受入状況	8
受 賞	機械工学専攻 小林寛和さんが 日本機械学会若手優秀講演フェロー賞を受賞	9
諸 報	新エネルギー研究セミナー「再生可能エネルギーとその未来」を開催	10
	北見医工連携研究会 医工連携フォーラム	11
	研究活動の不正防止説明会を開催	12
	シンポジウム「地域企業による『大学活用の成功事例』と 『大学の使い方』」を開催	13
	平成26年度合同企業研究セミナーを開催	14
	北海道中規模大学知財ネットワーク、医歯食工連携 ネットワーク合同会議に参加	15
	オホーツク de あそぼうさい2015	16
	平成26年度工学連携推進型地域6次産業人材育成事業 修了式	17
	「ひとを創る。ひとが創る。地域創生フォーラム」へ出展	18
	北見医工連賞授賞式・オホーツク医学大会	19
	図書館2階閲覧室の一部リニューアル	20
訃 報	平林眞 元学長・名誉教授	21
日 誌	2月・3月	22

= 学位記授与式 =

平成 26 年度学位記授与式を挙行

(総務課)

3月20日(木)、平成26年度学位記授与式が午前10時から北見市民会館で行われました。

学部378人の卒業生、大学院博士前期課程97人及び大学院博士後期課程3人の修了生に対し、高橋信夫学長から学位記が授与されました。

引き続き、学長告辞、櫻田真人北見市長、永田正記後援会会長、谷浩二同窓会会長及

び近藤和雄学生後援会会長からの祝辞の後、社会環境工学科 竹内友彦さんが、「北見工業大学での出会いのすべてがすばらしい思い出となり、大変充実した大学生活を過ごすことができました。」と答辞を読み上げ、式は無事終了しました。

卒業生、修了生の人数は下表のとおりです。

学部

学 科 名	卒業生数(人)
機械工学科・機械システム工学科	77
社会環境工学科・土木開発工学科	68
電気電子工学科	65
情報システム工学科	53
バイオ環境化学科	70
マテリアル工学科・機能材料工学科	45
合 計	378

大学院博士前期課程

専 攻 名	修了者数(人)
機械工学専攻	19
社会環境工学専攻	13
電気電子工学専攻	14
情報システム工学専攻	17
バイオ環境化学専攻	18
マテリアル工学専攻・機能材料工学専攻	16
合 計	97

大学院博士後期課程

専攻名	修了者数(人)
生産基盤工学専攻	1
寒冷地・環境・エネルギー工学専攻	1
医療工学専攻	1
合計	3



学位記授与式の様子

= 告辞 =

平成 26 年度学位記授与式告辞

学部卒業、大学院修了の皆さん、学位取得おめでとうございます。

皆さんのこれまでの努力が実り、めでたく学位記を授与されましたことに敬意を表し、北見工業大学の教職員を代表いたしましてお祝いを申し上げます。

本日はご多用にもかかわらず、北見市長の櫻田様、大学後援会会長の永田様、同窓会会長の谷様、学生後援会会長の近藤様にご臨席を賜り、学位記授与式を挙行できますことに感謝申し上げます。

本年度は、学士の学位記を378人に、修士の学位記を97人に、そして博士の学位記を3人に授与いたしました。この中には、26人の留学生が含まれます。学位記を授与されたことは、皆さんご自身の努力のたまものであることはもちろんのことですが、これまで皆さんを温かく見守り続けてこられたご家族を始めとした周りの方々の様々な支援のおかげでもあります。お世話になった方々への感謝の気持ちを大切にさせていただきたいと思っております。

本日は、この場にご家族の皆様にも多数ご出席いただいております。ご家族の皆様にご心からお慶びを申し上げますとともに、これまでのご苦勞と本学へのご協力にこの場をお借りしまして感謝申し上げます。

さて、学士課程を卒業される皆さんが入学したのは、2011年の4月です。その年の3月には、未だに多くの傷跡を残している東日本大震災が起こっています。それ以降も昨年の御嶽山の噴火など、様々な自然災害が発生しています。自然界ばかりでなく人間社会の情勢も世界規模で大きく変化し、益々その激しさを増しています。

そのような厳しい状況の中、卒業あるいは修了される皆さんの多くは、工学技術者として社会に船出することになります。そして、社会の荒波に身を曝し揉まれ様々な困難に遭遇することになります。皆さんは北見工業大学で学んだことを基盤として、それらの困難を乗り越えてくれるものと確信しております。

工学に携わる私どもにとりまして、この数年、厳しい問題を投げかけられる事項が相次ぎました。そのような状況の中で昨年は嬉しいニュースがありました。それは、赤崎先生、天野先生、そして中村先生のノーベル物理学賞の受賞であります。3人の先生方は青色発光ダイオードの実用化に向けて地道な研究成果を積み上げられ、今回の受賞にいたりました。受賞の理由は皆さんもご存知とは思いますが、「効率的な青色発光ダイオードを発明し明るく省エネルギーな白色光源を可能とした」ということであります。

工学に携わる私どもの基本は研究対象に真摯に取り組み、地道な作業を継続し確実な結果を積み上げることであります。皆さんにおかれましても、基本をしっかりと守り夢を大切に、その実現を信じて様々なことにチャレンジしていただきたいと思っております。そして、困難な課題を克服し、現在の閉塞感を切り開く若々しい技術者として活躍されることを心から願っております。これから、5年先、10年先と大きく成長して、母校である北見工業大学を訪ねてみてください。私ども大学の教職員も、皆さんに負けないように、これまで以上に教育・研究そして社会貢献の役割をしっかりと果たし、

確実に発展している大学の姿を皆さんにお見せできるよう鋭意努力する所存であります。

北見のこの冬は、毎週のように発達した低気圧に見舞われ、大雪に悩まされました。しかし、今日この頃は気温も上昇し、春の訪れが感じられるようになりました。本日は、皆さんの新たな船出を祝福するのに相

応しい良き日を迎えることができましたことに改めまして感謝申し上げますとともに、卒業生・修了生の皆さんのこれからのご健勝とご活躍を心から祈念いたしまして、学位記授与式にあたっての告辞といたします。本当におめでとうございます。

平成 27 年 3 月 20 日
北見工業大学長 高橋 信夫

= 入試 =

平成 27 年度大学院工学研究科入学試験(第 2 回)を実施

(入 試 課)

平成 27 年度大学院工学研究科前期課程入学試験(第 2 回)を 2 月 12 日(木)(学力検査)、13 日(金)(面接試験)に実施しました。各専攻別の合格者数等は下表のとおりです。

また、平成 27 年度大学院工学研究科博士後期課程入学試験(第 2 回)を 2 月 12 日(木)(面接試験)に実施しました。各専攻別の合格者数等は下表のとおりです。

博士前期課程

専攻名	募集区分		一般入試		社会人特別入試		外国人留学生 特別入試		高等専門学校 専攻科生特別入試	
	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
機 械 工 学 専 攻	4	1	0	0	0	0	1	1		
社 会 環 境 工 学 専 攻	2	2	0	0	0	0	0	0		
電 気 電 子 工 学 専 攻	1	1	0	0	0	0	0	0		
情 報 シ ス テ ム 工 学 専 攻	2	2	0	0	2	2	0	0		
バ イ オ 環 境 化 学 専 攻	6	6	0	0	0	0	0	0		
マ テ リ ア ル 工 学 専 攻	1	1	0	0	0	0	0	0		
合 計	16	13	0	0	2	2	1	1		

博士後期課程

専攻名	募集区分		一般入試		社会人入試		外国人留学生入試	
	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
生 産 基 盤 工 学 専 攻	0	0	0	0	1	1		
寒 冷 地 ・ 環 境 ・ エ ネ ルギ ー 工 学 専 攻	0	0	1	1	0	0		
医 療 工 学 専 攻	1	1	0	0	2	2		
合 計	1	1	1	1	3	3		

平成 27 年度工学部一般入試を実施

(入 試 課)

平成 27 年度工学部一般入試について、1 月 26 日(月)から 2 月 4 日(水)までの願書受付期間内に前期日程 465 人、後期日程 1,679 人の出願がありました。

前期日程は 3 月 6 日(金)に合格者を発表し、後期日程は 3 月 12 日(木)に個別学力検査を行い、20 日(金)に合格者を発表しました。各系の合格者数等は下表のとおりです。

前期日程

系 名	募集人員	志願者数	合格者数
機 械 ・ 社 会 環 境 系	64	188	133
情報電気エレクトロニクス系	63	129	100
バイオ環境・マテリアル系	46	148	91
合 計	173	465	324

後期日程

学 科 名	募集人員	志願者数	合格者数
機 械 ・ 社 会 環 境 系	56	707	95
情報電気エレクトロニクス系	42	561	66
バイオ環境・マテリアル系	36	411	76
合 計	134	1679	237

= 研究助成 =

平成26年度共同研究の受入状況

平成27年3月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
機器分析センター	准教授	大津 直史	貴金属量低減水素分離膜の劣化原因解析	JX日鉱日石エネルギー株式会社 中央技術研究所
社会環境工学科	教授	三上 修一	エポキシ樹脂系コンクリート補修材の寒冷地性能確認試験に関する研究	日本国土開発株式会社 技術センター
社会環境工学科	准教授	川口 貴之	地山補強土工用受圧板の寒冷地適応性向上に関する検討	日特建設株式会社

平成26年度累計86件

平成26年度受託研究の受入状況

平成27年3月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究担当者	研究題目	委託機関	所要経費 円
バイオ環境化学科	教授	鈴木 勉	農林産物由来の物質を用いた高性能・高環境性・低価格なナノ潤滑添加剤の開発	国立大学法人岡山大学	1,775,095
社会連携推進センター	教授	川村 彰	農業残渣である北見産紫蘇水を利用した忌避剤及び食品洗浄剤の商品化	企業組合北見産学医協働センター	320,760

平成26年度累計12件

平成26年度奨学寄附金の受入状況

平成27年3月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究者	寄附目的	寄附者	寄附金額 円
社会環境工学科	教授	渡邊 康玄	工学研究のため	株式会社ドーコン	500,000
情報システム工学科	講師	後藤 文太郎	バスロケーションシステムの研究のため	網走バス株式会社	100,000
機械工学科	准教授	渡辺 美知子	機械工学の研究	株式会社トリニティ・ドゥ	300,000
情報システム工学科	准教授	鈴木 育男	情報システム工学の研究	株式会社トリニティ・ドゥ	300,000
社会環境工学科	准教授	井上 真澄	工学研究のため	益村測量設計株式会社	100,000
バイオ環境化学科	教授	鈴木 勉	工学研究助成のため	鈴木 勉	400,000
マテリアル工学科	准教授	大野 智也	平成26年度科学技術研究助成金	公益財団法人スズキ財団	1,500,000
機械工学科	准教授	星野 洋平	農作物(南瓜)加工処理機械の研究開発	佐呂間町農業協同組合	700,000
機械工学科	准教授	林田 和宏	工学研究のため	林田 和宏	200,000
バイオ環境化学科	准教授	兼清 泰正	医用工学研究のため	北見医工連携研究会	200,000
社会環境工学科	准教授助教	井上 真澄 崔 希燮	工学研究助成	ドービー建設工業株式会社	250,000

平成26年度累計58件

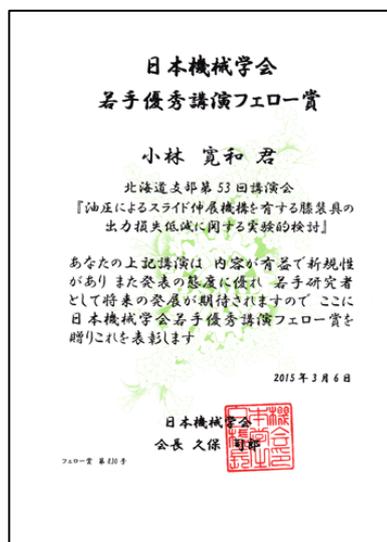
= 受賞 =

機械工学専攻 小林寛和さんが 日本機械学会若手優秀講演フェロー賞を受賞

(機械工学科)

3月6日(金)、北海道大学大学院工学研究院フロンティア応用科学研究棟にて開催された日本機械学会北海道支部第55期総会において、本学大学院前期課程機械工学専攻の小林寛和さんに日本機械学会若手優秀講演フェロー賞が授与されました。この賞は、国内有数規模の日本機械学会から授与される賞の一つで、若手研究者や学生等を対象とし、研究内容・講演発表がともに優れた講演発表者に授与される荣誉ある賞

です。小林さんは、昨年9月27日(土)に開催された日本機械学会北海道支部第53回講演会で、鈴木聡一郎教授、星野洋平准教授、同じく機械工学専攻の晴山貴人さんとのグループで行った研究「油圧によるスライド伸展機構を有する膝装具の出力損失低減に関する実験的検討」について発表を行いました。その研究と講演発表の内容が評価され、今回の受賞となりました。



日本機械学会若手優秀講演フェロー賞



受賞した小林さん

＝諸報＝

新エネルギーセミナー「再生可能エネルギーとその未来」を開催

(学生支援課)

2月7日(土)、本学多目的講義室で新エネルギーセミナー「再生可能エネルギーとその未来」を開催しました。

このセミナーは、オホーツク新エネルギー開発推進機構と本学オホーツク地域エネルギー環境教育研究会が主催したもので、企業、地域の教育関係者、本学教職員など56人が参加しました。

セミナーは二部構成となっており、第一部では独立行政法人産業技術総合研究所主任研究員の難波哲哉氏をお招きし、「再生

可能エネルギーの大量導入を目指して」と題して、再生可能エネルギーの効率化等について講演いただきました。第二部では、「地中熱ヒートポンプ冷暖房システム～地中の熱で暖房する～」と題し、本学機械工学科 佐々木正史教授がヒートポンプのしくみや地中熱源の利点などについて講演を行いました。

講演後には専門的な質問も出るなど、どの参加者も熱心に講演を聞き入っていました。



難波氏の講演



佐々木教授の講演



会場の様子

北見医工連携研究会 医工連携フォーラム

(社会連携推進センター)

2月9日(月)、ホテル黒部で医工連携フォーラムが開催されました。このフォーラムの主催である北見医工連携研究会は、本学の他、医師、歯科医師、薬剤師、獣医師、行政機関職員などが参画し運営しています。

フォーラムでは、北見医工連携研究会の構成機関を代表して北見市から塚本敏一副市長、北見工業大学から高橋信夫学長がそれぞれ挨拶し、その後、講演会が行われま

した。今回は日本赤十字北海道看護大学の山川京子教授を講師に迎え、「看護の工学的な研究の現状と課題」と題して講演いただきました。講演では、看護の分野でより良い研究成果を出すためには他分野の知識、知恵が不可欠であり、今後の各機関の連携、特に工学的な要素との連携に向けて期待が述べられました。



高橋学長 挨拶



講演する山川教授

研究活動の不正防止説明会を開催

(不正防止対策室)

全教職員を対象とした研究活動の不正防止説明会を、2月18日(水)、26日(木)及び3月4日(水)に開催しました。

本説明会は、本学の不正防止計画に則りコンプライアンス教育として実施するもので、全教職員に説明会への参加、そして参加後の「誓約書」提出を義務付けました。

「誓約書」の提出は、科研費を含む競争的資金、公募型研究資金及び補助金などの申請及び使用の際の要件としており、同じ内容の説明会を複数回開催することで、全員の参加機会を確保しました。

説明会では、不正防止対策室長でもある野矢厚副学長から説明会の目的と法令遵守の必要性について説明があり、続いて清野千春研究協力課長及び吉田茂財務課長から教職員が守らねばならないルールなどについて説明がありました。

この説明会は参加者にとって不正が生じた場合の重大さについて認識を新たにす機会となりました。短期間にもかかわらず対象者の全教職員が参加するなど、教職員の日頃から不正防止に取り組む意識の高さを感じられました。



野矢副学長からの説明



説明会の様子

シンポジウム「地域企業による『大学活用の成功事例』と『大学の使い方』」を開催

(社会連携推進センター)

2月23日(月)、シンポジウム「地域企業による『大学活用の成功事例』と『大学の使い方』」を開催しました。このシンポジウムは特定非営利活動法人産学連携学会北海道支部が主催し、一般社団法人中小企業家同友会オホーツク支部と本学社会連携推進センターは共催として参画しました。本学を会場とした本シンポジウムには、北見地域をはじめ札幌、釧路地域などの産業界、行政機関、そして大学等研究機関から、約45人の参加がありました。

基調講演として、「川崎の中小企業による大学活用の事例～川崎市の産学・産産連携モデル～」と題し、財団法人川崎市産業振興財団産業支援部長 櫻井亨氏に講演いただきました。講演では、産学連携を支援する立場から、川崎地域の企業による大学のニーズに応える「産学連携・試作開発促進プロジェクト」を中心とし、大学の活用方

法が述べられました。

引き続き、「地域企業による『大学活用の成功事例』と『大学の使い方』」をテーマとしたパネルディスカッションが行われました。基調講演を行った櫻井氏をはじめ、株式会社白石ゴム製作所代表取締役会長 千葉武雄氏、島根大学産学連携センター 丹生晃隆准教授、本学から内島典子産学官連携コーディネーターも参加し、4名がパネリストを、また、本学社会連携推進センターの鞘師守教授がモデレータを務めました。大学活用の事例紹介と、その良さや大学活用時の留意点、そして企業による大学活用の方法・コツについて、フロアも交えた活発な議論が行われました。

また、シンポジウム終了後の情報交換会にも大勢の方が参加し、今回のシンポジウムのテーマである「大学の活用」について、熱心な議論が展開されました。



講演する櫻井氏



パネルディスカッション

平成 26 年度合同企業研究セミナーを開催

(学生支援課)

3月3日(火)から10日(火)までの土日を除く6日間、本学講義室において合同企業研究セミナーを開催しました。

現学部3年生から就職活動の解禁が3年生の3月、採用選考の解禁が8月以降と大きく繰下げになるため、例年12月から実施されていた本セミナーも3月に集中開催と、スケジュールを一新して開催しました。

セミナーは、午前と午後のそれぞれ冒頭に全体説明会として各企業が自社をPRする2分間のプレゼンテーションを行い、その後各講義室に移動し3回のセミナーを行うと

いう形式で実施しました。学生は1日最大6社のセミナーを受講することが可能です。また、お昼には情報交換会を行い、企業の担当者、就職担当教員、学生などが参加し、就職に関する様々な話が交わされました。

6日間の参加企業数は計179社、参加学生数はのべ5,468名となり、1社あたりの参加学生数は30.5名となりました。連日の開催で学生には多少の疲れも見られましたが、学生だけでなく企業にとっても、良い出逢いの場となったようでした。



全体説明会の様子



情報交換会の様子



個別セミナーの様子

北海道地区中規模大学知財ネットワーク、

医歯食工連携ネットワーク合同会議に参加

(研究協力課)

3月10日(火)、11日(水)に九州工業大学及び西日本工業大学で開催された「北海道地区中規模大学知財ネットワーク、医歯食工連携ネットワーク合同会議」に参加しました。

従来は北海道地区と北九州地区がそれぞれネットワークを構築して活動していましたが、今回初めて北海道・北九州が合同で会議を開催することとなり、北海道からは本学の他に6大学、北九州からは7大学の計14大学が参加しました。

初日にはまず参加大学の紹介を行い、発明推進協会大学広域知的財産アドバイザー北川秀雅氏から両地区の概要が説明されま

した。その後、北海道地区の連携テーマ説明・意見交換を行いました。

2日目には関西TLO株式会社代表取締役社長大西晋嗣氏に「知的財産の活用連携について」と題して講演いただき、その後九州地区の連携テーマ説明・意見交換を行いました。

意見交換の場では参加大学の取り組みや連携内容についてなど、活発な意見交換が行われました。今回初めて開催された合同会議でしたが、北海道と北九州という遠隔地である大学同士が対面して情報交換を行うことができ、非常に有意義な会議でした。



北川氏による概要説明



テーマ説明及び意見交換の様子

オホーツク de あそぼうさい 2015

(研究協力課)

3月14日(土)、日本赤十字北海道看護大学の体育館をメイン会場として、「オホーツクdeあそぼうさい2015」が開催されました。今回で第4回目を迎えたこのイベントは、冬の災害発生時への対策を想定し、遊びながら冬の防災について学ぶ体験型イベントとして開催され、防災意識を高める場として定着しつつあります。

今年は「暖房の入っていない体育館がどのような空間になるか?」といった冬の避難所体験などが実施されました。本学からは、オホーツク地域エネルギー環境教育研究会からの参加として、バイオ環境化学科岡崎文保准教授が指導にあたり、学生4人が

ソーラークッカーを利用してビーフシチューや目玉焼き、ソーセージなどを調理する非常食体験を行いました。また、ソーラーエネルギー実行委員会の事業に本学のマネジメント工学コースとバイオ・食品コースの学生6人が加わり、ソーラーカートやソーラーラジコンカーの体験コーナーを実施しました。あいにく天候に恵まれず、太陽のエネルギーを十分には得られませんでした。ソーラーエネルギーを活用することの難しさを体感し、災害時のエネルギーの確保を考えることの大切さを理解する貴重な場となりました。



イベントの様子

平成 26 年度工学連携推進型

地域 6 次産業人材育成事業 修了式

(社会連携推進センター)

本学社会連携推進センターが中心となっていて行っている人材育成事業「新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン」は、平成18年度から22年度まで科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」事業として取り組み、その後、北見市やオホーツク総合振興局からの支援をいただきながら継続しています。今年度は北見市から一部協力をいただき、事業名「工学連携推進型地域6次産業人材育成事業」として実施しました。

本事業は、第一次産業製品の工業化を地域戦略の柱とし、健康と安心・安全をキーワードにした新規作物の作付けから商品開

発・事業化までの知識とスキルを有する「工学的農業クリエイター」の創出を目指しています。今年度の受講生は北見市関係から3名、本学学生が2名でした。社会人受講生はタマネギソースや小麦関連商品の開発を進めており、学生は紫蘇水の商品化や地域6次産業化に関する調査を行うなどで成果を挙げました。

3月16日(月)には修了式が行われました。本事業では、本学研究推進機構の工農連携研究ユニットとも連携し、今後も修了生のフォローアップや人材育成を引き続き展開していく予定です。



工学連携推進型地域6次産業人材育成事業 修了式

「ひとを創る。ひとが創る。地域創生フォーラム」へ出展

(社会連携推進センター)

3月20日(金)、東京都千代田区内幸町にあるイイノホール&カンファレンスセンターで「ひとを創る。ひとが創る。地域創生フォーラム」が開催されました。このフォーラムは、社会システム改革と研究開発の一体的推進事業の一環で、地域再生人材創出拠点の形成シンポジウムとして開催されたものです。

このフォーラムでは、これまで「地域再生人材創出拠点の形成」事業において人材育成事業に実績を上げている、本学を含む

全国の大学等の採択プロジェクトの紹介とその成果報告、パネル展が実施されました。

プログラム報告、基調講演の後には、人材育成分野により6つの分野に分かれてフューチャーセッションを行い、それぞれの議論が行われました。また、「地(知)の拠点大学による地方創生推進(大学COC+)事業」と呼ばれる、地域創生の中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的とした事業の説明も行われました。



パネル展の様子

北見医工連賞授賞式・オホーツク医学大会

(研究協力課・社会連携推進センター)

3月21日(土)、本学A101講義室で北見医師会、北見医工連携研究会主催による第8回オホーツク医学大会が開催されました。北見医師会長 古屋聖児氏の開会挨拶に続き、まずは北見医工連賞の授賞式が行われました。

北見医工連賞は、主として若手研究者の医療工学研究のために設けられ、今年には本学バイオ環境化学科 兼清泰正准教授が受賞しました。授賞式の後には、兼清准教授から「糖尿病予防・管理に向けたパーソナルユース糖センサーの開発」と題した受賞者講演が行われました。引き続き行われた特別講演では、本学 吉田孝理事・副学長

による「硫酸化糖鎖と抗ウイルス性」の講演が行われました。一般講演では地域の医療機関や日本赤十字北海道看護大学、東京農業大学などから、地域医療事情や学生の発想による取り組みなど、多分野にわたる10件の興味深い発表が行われました。

オホーツク医学大会ではこれまで医療の分野に関する講演が主として行われていましたが、今後さらに幅広い分野で講演を実施していきたいとのことで、本学の研究発表の場、地域への情報発信の場としての活用が期待されます。



北見医工連賞を受賞した兼清准教授



吉田理事・副学長による特別講演

図書館 2 階閲覧室の一部リニューアル

(情報図書課)

図書館では、3月にいくつかの改修工事を行いました。工事期間中は利用を制限する箇所を設けたり、工事作業音が発生したりと利用者の皆さまにはご迷惑をおかけしました。

閲覧室3に、エアコンを設置しました。これまでは窓を開けることでしか夏の暑さをしのぐ方法がなかったのですが、これからは気温に関係なく快適にご利用いただけま

す。

また、閲覧室3と階段をフローリング材の床からカーペットに張り替えました。足音が響くことを気にしていた方もいるかと思いますが、より静かな環境になりました。

リニューアルされた図書館2階をぜひご利用ください。



訃報

(総務課)



本学元学長、名誉教授平林眞氏は、平成27年3月5日、ご逝去されました。享年89歳でした。

同氏は、昭和22年東京帝国大学第二工学部冶金学科を卒業後、同大学及び東京工業大学大学院特別研究生を経て、昭和26年から東北大学金属材料研究所の助手として赴任、講師および助教授を経て、昭和38年に教授に昇任されました。昭和61年からは金属材料研究所の所長を務められ、全国共同利用研究所への移行、新棟の建設など

研究所の大きな変換期に尽力されてこられました。

平成2年4月、北見工業大学第5代学長に就任、平成8年3月に退官されるまでの6年間、学科の再編や情報工学専攻の設置に加え、技術部や地域共同研究センターの設置など、本学発展にご尽力されました。

これらの数々のご功績により、平成13年に勲二等瑞宝章を授けられました。

おって、平成27年3月5日付で、天皇陛下から従三位に叙されました。

ここに、慎んでご冥福をお祈りいたします。

= 日誌 =

2 月

- 2日 オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 7日 新エネルギーセミナー
- 9日 入学者選抜委員会、社会連携推進センター運営会議
- 10日 入試企画センター運営会議
- 12日 大学院博士前期課程入学試験(第2回)(～13日)、大学院博士後期課程入学試験(第2回)
- 13日 入学試験実施委員会、入学者選抜委員会
- 17日 研究推進機構統括会議、発明審査委員会、入学者選抜委員会
- 18日 教授会、研究科委員会、研究活動の不正防止説明会、私費外国人留学生入学試験合格発表、大学院入学試験(第2回)合格発表
- 20日 教務委員会
- 24日 入学者選抜委員会
- 25日 教育研究評議会
- 26日 研究活動の不正防止説明会、学生委員会、入学者選抜委員会

3 月

- 2日 編入学入学手続(～10日)、大学院入学手続(～10日)、オホーツク産学官融合センター事務局会議、北見工業大学地域コア運営委員会
- 3日 合同企業研究セミナー(～10日)、入学者選抜委員会
- 4日 教授会、研究科委員会、研究活動の不正防止説明会、社会連携推進センター運営会議
- 6日 教務委員会、一般入試(前期日程)合格発表
- 7日 一般入試(前期日程)入学手続(～15日)、私費外国人留学生入学手続(～15日)
- 9日 教授会
- 12日 一般入試(後期日程)個別学力検査
- 17日 教育研究評議会、入学者選抜委員会
- 18日 経営協議会、役員会、学長選考会議、国際交流委員会
- 19日 教授会、発明審査委員会、入学者選抜委員会
- 20日 学位記授与式、一般入試(後期日程)合格発表、学術情報委員会
- 21日 一般入試(後期日程)入学手続(～27日)